② 有識者の助言等により、野生鳥獣の目撃や被害等の情報の地図化とともに体制や対策の見直しを進めた事例

効果的な鳥獣被害対策と 担当者の負担軽減のための市の体制づくり

事例対象地:埼玉県飯能市

団体:飯能市鳥獣被害対策隊

HP: city.hanno.lg.jp/

キーワード:

体制の見直し

地域防災

1. 概要

飯能市では、市職員による「飯能市鳥獣被害対策隊」を設置しており、役所内で広く対策隊員を募集し、役割 分担により個人の負担を最低限にとどめながら体制確立を行ったことが特徴的。対策隊員には、消防団経験者の 職員が多いことから防災意識も高く、集落生まれの職員が対策に取り組むことで、住民の協力と同意が得られや すい。また、対策隊員による地域の見回りは、結果的に集落の高齢者を見守る福祉の機能も発揮している。

2. 取組の経緯

市域の7割を森林が占め、二ホンザル、イノシシ、二ホンジカによる農作物被害等が問題となっていた。平成27年には「飯能市鳥獣被害防止計画」を策定し、更なる被害の悪化を防ぐため、平成29年4月に「飯能市鳥獣被害対策隊」を設置した。

3. 実施体制

飯能市における鳥獣被害対策組織は、鳥獣被害 対策室員2名と猟友会員2名からなる実施隊4名、 市役所内の各課から有志で参加する鳥獣被害対策 隊79名及び市内全域での有害鳥獣捕獲を行う猟友 会員29名によって構成されている。

組織の統括は農業振興課に設置した鳥獣被害対策室が行い、実施隊等の各組織に所属するメンバーが防護柵の設置や有害鳥獣の捕獲を実施している。

飯能市鳥獸被害対策隊 飯 能市 地域ぐるみでの鳥獣対策を担う ・市民や各地区のセンターよ・市民や各地区のセンターより情報、被害情報の集約 □飯能市役所職員79名 産 業 各地区に所属する隊員が担当 鳥獣の出没通報時の出動、追払い、 伝達 環 わなの見回り、被害情報の収集 ほか 境 部 捕獲があれば 飯能市鳥獣被害対策実施隊 実施隊へ伝達 業 の集約 振興 鳥獣対策の実践的位置づけ □鳥獣被害対策室2名、猟友会員2名 り寄せられた 課 ・捕獲、柵の設置、捕獲個体の止め刺しな ど、より実践的な活動を担う 猟友会 市内全域の有害捕獲を担う 飯能市の □飯能市猫友会員29名 鳥獣対策を ・有害鳥獣捕獲や、クマ出没時の緊急 統括 捕獲を実施

4. 取組のポイント

- ●対策隊は「地域ぐるみの鳥獣被害に強い地域づくり」の実現を目指して、住民と共に活動することを重視している。
- ●対策隊は市内の山間部を5地区に分け、各隊員は主に自身が住む地区の隊に所属し、各集落における鳥獣被害や目撃情報の収集、防護柵の設置やサルの追払いの支援、有資格者による有害鳥獣捕獲等を行う。
- ●止め刺しの作業を実施隊員に一任することにより、対策隊員の精神的負担の軽減を図っている。